

## 第3章 尚巴志とは誰か？の整理

### 3-1. 尚巴志の人物像・功績の整理

資料編に掲載する尚巴志に関する文献・史料の整理の結果、尚巴志の人物像あるいは功績を表現するキーワードとして、「三山統一と琉球の国造り」「施政体制の整備」「農業の重視（産業振興）」「卓越した国際感覚」「リーダーとしての人柄」「親思い」「武芸堪能」が得られた。

#### ①三山統一と琉球の国造り

三山を統一し、琉球王国を興した。また首里城や那覇港、安国山の緑化整備等を実施した。

- 尚巴志は1406（永楽4）年に中山王・武寧を、1416（永楽14）年に北山王・攀安知を、1429（宣徳4）年に南山王・他魯毎を滅ぼし、三山を統一した。『中山世鑑』等の史書によると、武寧や攀安知は暴君で、諸按司は若く英明な尚巴志を慕って彼の側についたという。
- 尚巴志は都市建設においても才能を発揮している。首里城の創建時期は不明だが、本格的な整備は尚巴志の時代に行われたとみられ、そしてそれは城の拡充だけではなく、周辺環境整備までを含めた大規模な首都建設事業だった。首里城はその造りからみて、戦に備える城ではなく、外国の使者を迎える「国の顔」として造営されたものと考えられている。
- この王城建設事業の規模の大きさを示すものとして、大里から首里まで半間ごとに人夫を立て、リレー式に大里城の石を首里に運んだという首里の伝承があるという。（『沖縄歴史物語』参照）
- 1427（宣徳2）年に建立された「安国山樹華木之記碑」によると、王城の北に池を掘り、樹華木を植え、城外に庭園を造営したという。池が現在の龍潭、樹華木を植えた場所が安国山（現在のハンタン山）とされ、風水を取り入れて明の王宮になったとされている。また翌年の1428（宣徳3）年には城門外に首里城の築城を記念した中山門を建てた。安国山や王城の環境整備は今日における都市計画のひとつといえるだろう。
- 当時、那覇は首里とは隔てられた「浮島」と呼ばれていたが、島の南は旧来の港に比べて深く、当時の大型船（進貢船など）が入港できる数少ない入江だった。三山統一後、尚巴志はここを港として整備し、琉球の玄関口に定めたと考えられている。（『絵で解る琉球王国 歴史と人物』参照）

#### ②施政体系の整備

間切制度を確立させる等、のちに続く琉球王国の施政体系を整えた。

- 尚巴志は間切制度という現在の市町村ともいえる行政単位を確立させた。間切制度の確立は沖縄における地域自治システムの誕生とも捉えられる。
- 地方と首里王府を結ぶ「宿道」を造ったといわれる。さらに早馬を使って、情報を伝達させていく「宿次」という情報伝達の体制を整えた。これによって首里からの情報を各地に、

あるいは各地からの情報を首里に、間切番所を経由させて伝えるという国内の情報収集システムを確立させた。

### ③農業の重視(産業振興)

鉄を入手し、農具を造り、農民に分け与えたことが農業生産性を高め、統一の足固めとなった。

- 尚巴志が農民のために自身の剣と鉄を取り換える逸話からは、彼には早くから先見の明があり、指導者としての素質を有していたことが伝わる。尚巴志が少年の頃、鍛冶屋に命じて3年がかりで作らせた剣があった。ある日、与那原の港に来た大和商人がその剣を求めた。尚巴志は商人と交渉し、船一杯の鉄塊と剣を交換することになり、そうして手に入れた大量の鉄を、彼は百姓に分け与え農具を作らせた。百姓たちは感服し、みな尚巴志を敬うようになったという。(『絵で解る琉球王国 歴史と人物』参照)
- 稲作の二期作を導入したもしくは推進した可能性が高い。当時の最新の農業技術だった二期作と、鉄製農具の導入によって農業集落を増加させ、すなわち国力を増強し、それに支えられて、第一尚氏が生まれたとみることができる。

【参考】佐敷が人口過疎地だったのは、グスク時代の13-4世紀前半までのことだったと考えられている。第一尚氏が登場した14世紀末から15世紀の集落の分布状況については、まだ十分な考古学的資料の蓄積が行われていないのでできない。しかし、『絵図郷村帳』などの17世紀半ばの集落分布と城時代の13-14世紀の遺構分布を比較すると、15-16世紀にかけて、集落はジャーガル地帯の海岸低地や谷底低地帯で急速に増加していったことがわかる。グスク時代の開始期に石灰岩台地を中心に集落が激増したのと同じように、15-16世紀には海岸低地・谷底低地で集落が急増していったのである。第一尚氏は、こうした集落の人口急増、したがってその背後にある、農業生産力の発展を背景に急速に力を蓄えたに違いない。この佐敷の農業生産力の発展の秘密は、水稻二期作だったと考えられる。＜中略＞おそらく14世紀後半に明朝との朝貢貿易を請け負った福建系華僑らによって伝えられたと考えている。＜中略＞しかし、二期作は当時の沖縄本島ならどこにでも普及できたのではなかった。佐敷のような石灰岩台地がすくない海岸低地・谷底低地などの従来の水稻探索地帯を中心に展開したと考えられるからである。(安里進『グスク・共同体・村』p59-61抜粋)

### ④卓越した国際感覚

海外交易を拡大するとともに、冊封体制を通じて王国の政治経済力を強めた。

- 尚巴志の鋭い先見性は海外交易においても大きく発揮された。彼は東南アジアとの貿易を隆盛させた。シャム国との活発な交易から始まり、スマトラのパレンバン、ジャワとの通行も行なった。この南方貿易の展開により、進貢貿易をはじめとする海外交易は活気をおびていく。
- これら南方物産に、琉球・日本物産を加えて中国進貢品とし、日本交易には中国製品・南方物産を用い、朝鮮交易には南方・日本・琉球物産を中心にというように中継貿易的な展開がなされていく。
- 尚巴志の時代の交易を通して、三線や紅型や泡盛といったものがアジア各地から伝わり、後の豊かな琉球文化の原型となっていく。

- 尚巴志は明との交易も盛んに行い、交流を活発にした。尚巴志の時代、明朝の使者の柴山が1425（洪熙元）年以来冊封その他で五度も来琉している。その柴山は大安禪寺、下天妃宮を創建するなどの貢献をした。明との交流を活発にすることで、その文物を取り入れることに努め、国を治めることに活用した。
- 懐機（かいき）という久米村の明人を参謀として登用し、内政、外交の担当として重用した。また、朝鮮との通交の際には対馬の倭寇の早田六郎次郎の船に使者を便乗させた。このように尚巴志は積極的に外国人を登用するなど常に国際的な視点を持ち、そのことで次々と的確な政策を打ち出すことができたのであろう。（『琉球王国 人物列伝』参照）
- 15世紀に李朝朝鮮と日本の外交に活躍した李芸（りげい）という人物がいる。李芸は、倭寇に捕らわれて売られた朝鮮人を連れ戻すため、尚巴志が北山を滅ぼした1416年に琉球にもきており、44人を連れ帰った。尚巴志がこれに協力したと考えられている。尚巴志はこのように人情に厚く、当時の国際政治をよく理解し、多忙な中でも何を行うべきかを決断できた人物であった。
- 三山統一前から室町幕府4代将軍・足利義持、三山統一後には6代将軍・足利義教と書簡を交わすなど、尚巴志と父思紹は日本とも通じ、琉球の統一王であることをアピールしていた。

## ⑤リーダーとしての人柄

佐敷の「鬼鷲」として知られ、「豪胆にして志高い」と称えられる。

- 尚巴志はその人となり王の史記で「巴志為人肝大志高雄才蓋世（巴志の人となりは、豪胆にして、志高く、世を圧倒するほど雄才である）」（『球陽』）と称えられるなど、若いときから人の心をつかむカリスマ性を備えていた。
- オモロでは、佐敷按司を「意地気按司<sup>いぢへき</sup>」や「大国按司<sup>ちやくに</sup>」などと称えており、これは佐敷按司となった思紹（尚巴志の父親）や尚巴志のことと思われる。
- 尚巴志を歌ったオモロに、「佐敷苗代<sup>さしきなわしろ</sup>に 孵<sup>す</sup>で物 真物<sup>まもの</sup> 取り揚がる<sup>と</sup> みしや子<sup>や</sup>／佐敷門口<sup>さしき</sup>に 鬼鷲<sup>おにわし</sup>の羽撃ちする<sup>はねうち</sup> 見物<sup>みもん</sup> 又北の門口<sup>にし</sup>に（佐敷の苗代に生まれたるはすぐれ者だ、評判を呼ぶすぐれ者だ／佐敷グスクの北門口で、鬼鷲が羽ばたいているさまは見事だよ）（『新琉球王統史3 思紹王・尚巴志王、尚泰久王』）というものがある。歌の前半部分は尚巴志か思紹の誕生を称えた歌ではないかといわれ、後半部分は青年尚巴志が若按司として羽ばたこうとするさまを歌ったものといわれている。
- 尚巴志は若い時にユックイの坂の頂から三山の地形を見おろして、「島が三つに分かれて、相争っているのはおかしい、自分はきっとこれを統一してみせる」と豪語したという（『沖縄歴史物語』）。
- 尚巴志はまた知謀にも優れており、南山滅亡に関する伝説は彼の戦略家としての側面を表している。かつて南山の高嶺間切の屋古村というところに嘉手志川という泉があったが、時の南山王・他魯毎は贅沢な人で、尚巴志の持つ金屏風を欲しがった。他魯毎が尚巴志に申し入れると、尚巴志は嘉手志川となら換えようと返した。そこで他魯毎は喜んで取りか

えた。そして尚巴志は自分に従う百姓にはこの泉の水をやり、従わないものには使用を禁じた。そのため百姓たちは巴志に味方するようになり、南山はついに亡んだという。

- 尚巴志が亡くなった時、国相の懷機が中国道教の本山に送った手紙に国民が皆号泣した様子が記されるというように、尚巴志が人々から敬愛されていたことがうかがえる。

## ⑥親思い

思紹を中山王に即位させるなど、自らよりも父を立てた。

- 尚巴志は若い頃に父の思紹から、思紹自身の隠居に伴って、尚巴志が戦乱の世の中を平定するように託された。そして尚巴志は父親の思いを背負う決意をし、佐敷按司となった。
- その後、中山王・武寧を滅ぼしたあと、尚巴志は父親の思紹を中山王の座に就けた。しかし実質は尚巴志が国政を取り仕切っていた。思紹の王位は、尚巴志が父親を立てるために、敬って就けたものと捉えられる。

## ⑦武芸堪能

小さいながらも俊敏で武力に優れ、「佐敷の小按司」、「鬼鷲」として知られた。

- 尚巴志は武芸の達人でもあった。尚巴志は少年の頃、与那原の鍛冶屋に剣を造らせた。その剣を得た尚巴志は与那原の海で、船に乗って遊んでいた。すると突然波を裂いて大鰐（鮫）が襲いかかってきて、舟はひっくり返ってしまった。しかし、尚巴志は剣を抜いて立ち向かい、その気迫で大鰐（鮫）を退散させたという。
- 尚巴志は身長が五尺（約150cm）にも満たず「佐敷の小按司」と呼ばれたといわれるが、彼の力はとても強大であった。ある時、和船でやって来た武士が、佐敷按司であった尚巴志と掛け合いをするために彼を訪ねた。すると武士は若くして按司になったという尚巴志の体がとても小さいことに驚いた。尚巴志は武士を歓待し、煙草盆を武士の前に出して、煙草を勧めた。しかし武士は盆を引き寄せようとしたが微動だにしない。全力で引いても動かない。武士はこの重たい盆を軽々と扱う尚巴志に恐れ入り、試合をせずにごすごと帰った。ところが浜に来てみると船が陸に引き上げられている。これも先回りした尚巴志の仕業だった。武士は尚巴志に頼み込み、船をもとの海に浮かべてもらい退散したという。

## 3-2. 尚巴志に関する位置づけ・要望等の整理

### (1) 既往計画の位置づけ

本市で策定された既往計画における、尚巴志関連の位置づけを整理する。

計画名	位置づけ
南城市 第一次 総合計画	<p>①歴史文化資源の保全・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化資源の調査・研究/・文化財指定の推進/・地域の御嶽や拝所等の保全</li> <li>・世界遺産等における一体的な周辺整備/・歴史文化資源の有機的なネットワーク化</li> <li>・歴史民俗資料の保管・展示等のあり方の検討/・文化財ガイドの養成</li> </ul> <p>②伝統文化・芸能の継承・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化・伝統活動を行う人・団体への支援/・伝統行事や伝統芸能発表会の開催</li> <li>・関連機関との連携による研究活動の推進/・指導者・後継者の育成/・地域と密着した郷土教育の推進</li> </ul> <p>⑤文化芸術創造活動を担う人づくり・組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が文化芸術に触れる機会の創出/・市民の主体的な文化活動への環境整備・構築</li> <li>・優れた人材への育英事業/・各種文化団体の育成と活性化の促進</li> </ul>
南城市 歴史文化 基本構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南城市を読み解くキーワード「琉球発祥の地・南城」を構成する重要なことからして「統一王朝のはじまり」とし、それに連なる関連文化財群のうち、「尚巴志と下の世の主」関連文化財群、「第一尚氏の光と影」関連文化財群を位置づける。</li> <li>■「佐敷上グスク・場天御嶽周辺保存活用区域」保存・活用の方針</li> <li>①グスクを中心に周辺文化財の一体的な保全と活用を進める。</li> <li>●現在、市指定である佐敷上グスクの上位指定(国指定)を実現するとともに、佐敷上グスクについて積極的な情報発信を進めて、観光や歴史探訪等の利用を活性化する。</li> <li>●グスク(史跡範囲)と周辺文化遺産が一体的な雰囲気を持つような保全と景観整備を進め、利用連携を図るとともに、相互の文化遺産の関連性を示す情報提供を充実する。</li> <li>●宿道であった集落の中道、里道を活用した集落散策ルートを確認する。また、丘陵上の佐敷ようどれとの周遊ネットワーク化を図る。</li> <li>●ハンタ緑地と連担しながらグスクを囲む緑地を一体的に保全するとともに、佐敷上グスクや佐敷ようどれにおける眺望点を確認し、佐敷干潟や富祖崎緑地への眺望景観の確認を図る。</li> <li>③歴史にヒントを得た芸術文化、芸能などの活動を推進する。</li> <li>●地域の歴史文化を掘り起こし、発見された歴史事象をテーマにした地域活動、芸能活動、芸術活動を促進する。特に尚巴志(及び佐銘川大主)をテーマとした題材には力を入れ、子ども会や青年会、老人会等の活動を支援するなど、地域の住民に尚巴志の子孫(広義)である共通認識を育てる。</li> <li>■「第一尚氏王統保存活用区域」保存・活用の方針</li> <li>①第一尚氏王統に関する伝承の発掘と発信に努める。</li> <li>●市史編纂事業と連携しながら、第一尚氏に関連するグスクや墓などの調査研究、伝承の収集・整理を進め、整理したデータは冊子やウェブサイトなどでなるべく公開する。</li> <li>●第一尚氏王統を題材にした講演会・勉強会、史劇や琉歌の創作などの活動を市民に広めていく。</li> <li>②文化遺産を核とした集落景観の整備を支援する。</li> <li>●石畳道など石製建造物の保全・修復、水資源を活用した親水性の演出、サイン等による文化遺産のネットワーク化など、伝統集落にふさわしい景観形成を図る。</li> <li>●都市計画法の風致地区と連動して、ハンタ緑地から仲栄真グスクにかけての緑地を保全する。</li> </ul>

計画名	位置づけ
都市計画 マスター プラン	<p>3-4 都市環境に関する方針 (1)自然的環境の整備又は保全に関する方針 基本方針 美しい自然と東御廻りの文化を継承し、育む環境づくり 本市は、一般的に起伏に富んだ地形となっており、市域中央部と海岸部の大きな高低差は、緑豊かなハンタ(崖)を形成している。また、三方を海で囲まれており、特に東部から南部にかけての地域では、自然海岸が多く残され、特徴的なサンゴ礁景観を眺望することができる。さらに、市内には、世界遺産・斎場御嶽に代表される御嶽や御川等の歴史・文化的な背景のある自然環境や、東御廻り(アガリウマイ:聖地巡り)に係るグスク等の自然と一体となった地域資源が数多く分布している。</p> <p>こうしたことから、<b>本市が誇る自然、歴史・文化の資源を積極的に保全し、後世に継承するとともに、市街地等の居住環境に潤いを与える資源として、また、地域活性化に寄与する観光資源、教育資源として適切に活用していく。</b></p> <p>さらにこれらの取り組みとも連携しながら、市民が身近で利用できる都市公園の充実を図る。</p> <p>③主要な緑地の配置の方針</p> <p>■環境保全系統 なお、ハンタ緑地については、<b>生物多様性を確保するとともに、歴史・文化遺産と一体となった良好な環境・景観を積極的に保全するため、「風致地区」等を指定する。</b></p> <p>■レクリエーション系統 また、地域の特色を生かした憩いの場づくりとして、海岸部では、奥武島や各ビーチの環境保全を図るとともに、海岸の状況に応じて親水・散策のための緑地の拡充に努める。<b>さらに、貴重な文化財を適切に保護し、集客・交流や歴史教育に活かすため、斎場御嶽やグスクを中心に公園化を進めるとともに、そのネットワーク化を図り、歴史回廊の形成に努める。</b></p> <p>■景観系統 <b>ハンタ緑地は、市街地等の背景として美しい景観を形成しているため、緑の稜線や、森林の集団性を乱す大規模・無秩序な開発を抑制する。</b></p> <p>また、高台からの海の眺望は、本市観光において重要な役割を果たすものであるため、自然海岸および周辺緑地の保全を図るとともに、これらを見渡せる国道331号沿いや、丘陵地上部、海岸先端部の緑地は、展望公園としての活用に努める。</p> <p>(2)景観づくりに関する方針 ①基本方針 眺望に優れた自然などの南城らしさを生かし、観光との関わりを意識した景観づくり 本市では、自然・歴史景観の保全と、観光・交流を支える景観形成を重点化するものとし、そのために、「都市計画法」や「文化財保護法」等に加えて、新たに「景観法」を適用し、これらを総合的・効果的に運用していく。</p> <p>景観法の活用に関しては、地域の特性に応じて、建築物のデザイン・色彩等のルールを定め、市全域を基本に、届け出・勧告を中心とした緩やかな規制・誘導を図る。<b>なお、海岸周辺や世界遺産周辺、奥武島など、景観上、重要な地区については、「景観地区」等の強制力のあるルール指定を検討し、積極的な規制・誘導に努める。さらに、「歴史まちづくり法」の適用もあわせて検討し、観光・交流に活かすための文化財の整備・再生に努める。</b>市民等が展開する景観づくり活動に対しては、各種団体と連携した指導・助言体制を整備し、支援に努める。また、公共事業においては、景観に配慮した民間開発等が誘発されるよう、先導的な取り組みを推進する。</p>
南城市景観 まちづくり 計画	<p>3-1 景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針 (2)市全体の景観まちづくり方針 ①自然景観に関するまちづくり方針 a.市全体の景観の骨格となる地形・自然を保全します。 変化に富んだ地形(ハンタ・丘陵地、海岸線)やその一帯に広がる自然は、市全体の景観の骨格を成す重要な存在であり、市民の大きな誇りといえます。そのため、これらの人工的な改変を避けることを原則としながら、他法令に基づく行為制限(風致地区等)との連携や、景観面からの建築ルールの設定等を通じ、人々の生活・経済活動と自然景観との調和を図っていきます。</p>



計画名	位置づけ
	<p>b.海・山・空への眺望が効いた景観を保全します</p> <p>高台からの眺望や、国道331号等の見通しの先にある海・山・空は、多くの人に感動を与えています。そのため、海・山・空への眺望や見通しを市全域で保全することを目標としながら、景観面からの建築ルールの設定等を通じ、主要な場所(ニライ橋・カナイ橋展望台等)での景観保全を積極化します。あわせて、これらの場所では、より快適に眺望を楽しむための環境整備を進めます。</p> <p>c. 地域の暮らしに密着した自然・樹木を保全します</p> <p>地域にはクサティムイや湧水、巨木をはじめ、特徴的な自然が存在します。これらは地域の景観の骨格を成すとともに、クサティムイ等に関しては、古からの住まい方の知恵や信仰が反映され、「自然」と「歴史・文化」を結び付けるための重要な存在となっています。</p> <p>そのため、市全体の景観の骨格を成す地形・自然の保全施策と連携し、景観法に基づく制度(景観重要樹木等)の活用も視野にいれて、きめ細やかに保全に取り組んでいきます。</p> <p>②「伝統的景観」に関する景観まちづくり方針</p> <p>a.琉球王国最高の聖地としての風格ある景観を保全します。</p> <p>斎場御嶽をはじめとした歴史的価値の高い御嶽・グスクは、景観的にも優れた存在であり、市民の誇りといえます。そのため、他法令に基づく行為制限(風致地区、指定文化財等)との連携や、景観面からの建築ルールの設定、景観法に基づく制度(景観重要建造物等)の活用を通じ、一帯の神秘的な雰囲気を守ります。あわせて、南城の歴史・文化と景観のシンボルとして、誰もがその存在感を体感しやすくするための環境整備を進めます。</p> <p>b.伝統文化と美しさを感じる農漁村景観を保全します。</p> <p>サトウキビ畑や、漁港・海岸周辺など、生業の環境を骨格とした農村景観、漁村景観は、沖縄の自然条件のなかで育まれた伝統文化の景観といえます。そのため、他法令に基づく行為制限(農業振興地域等)との連携や、景観面からの建築ルールの設定を通じて、農漁村景観の秩序・美しさを守ります。あわせて、景観法に基づく制度(景観農業振興地域整備計画、景観重要公共施設等)の活用も視野に入れ、環境整備による魅力向上に取り組めます。</p> <p>c. 暮らしの知恵、信仰が生きる空間を保全します。</p> <p>市内では、井泉をはじめ、厳しい自然条件のなかで培われた知恵や信仰が反映された歴史・文化的資源が人々の身近に存在しており、これらは集落の空間構成にも大きな影響を与えています。そのため、これらの自然を保存・修復し、継承を図るとともに、景観面からの建築ルールの設定等を通じ、伝統文化が生きる空間としての一帯の雰囲気を保全します。特に仲村渠集落をはじめ、伝統的な形態を色濃く残す集落では、環境整備を含めて、景観まちづくりを重点化します。</p> <p>(3)地域別の景観まちづくり方針</p> <p>④自然・農業系地域</p> <p>a.地形や自然条件を生かした美しい景観づくり</p> <p>変化に富む地形や豊かな自然が地域の景観の骨格を成していることを踏まえ、そのような空間の基本構成を尊重し、調和する景観づくりを進めます。</p> <p>[方針展開の一例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ハンタ、岬、海の優れた自然環境を積極的に保全する</li> <li>●建築物は、自然豊かな稜線や海岸線を分断しない配置、高さとする</li> <li>●山の自然景観に馴染むよう、勾配屋根や自然素材の活用等により建築物をデザインする</li> <li>●自然景観に馴染みやすい暖色系で落ち着いた色使いとする</li> <li>●サトウキビ畑等の特徴的な生業環境を景観資源として保全・活用する</li> </ul> <p>b. 歴史・文化が薫りたつ景観づくり</p> <p>数多くの歴史・文化的資源が分布するなか、これらの存在が際立ち、また、地域の暮らしに密着して息づく景観づくりを進めます。</p> <p>[方針展開の一例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グスクや御嶽等は、歴史的・景観的に優れた建造物として、周辺の緑とあわせて積極的に保</li> </ul>

計画名	位置づけ
	<p>全する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グスク等の活用を進めるため、その歴史性に配慮しながら環境整備(アクセス道路、サイン、駐車場等)を行う。</li> <li>●建築物は、グスク等の存在感を侵さない高さ、色使い等とする。</li> <li>●地域に親しまれてきた身近な歴史・文化的資源(井泉等)は、周辺の緑化等により、集落の景観的なシンボルとして育成する。</li> </ul> <p>c.風情や落ち着きを感じる住まい景観づくり 暮らしの知恵や信仰が生きる集落も多くみられるなか、その風情や落ち着きを損なうことがないよう配慮した景観づくりを進めます。</p> <p>[方針展開の一例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スーゾグアー、石垣、屋敷林等の伝統的な価値を持つ景観資源を保全する</li> <li>●敷地の連続性に配慮し、周辺にあわせて生垣や石垣を設置する</li> <li>●集落らしいスケール感を損なうことがないよう、建築物の高さを低く抑える</li> <li>●赤瓦、漆喰等の伝統的な素材を取り入れて建築物をデザインする</li> </ul>
南城市 観光振興 計画	<p>1. 基本方針 方針1 南城市の「強み」を活かす南城ブランドの確立</p> <p><b>南城市の強みは、久高島や斎場御嶽に代表される沖縄精神文化の最高の聖地である点と豊かな自然、様々な歴史・文化遺産などがあります。</b>また、沖縄の出荷量の約40%を占めるものもある農作物や健康と癒しをテーマにした統合医療などの全市的な取り組みや年間130万人が訪れる「おきなわワールド文化王国・玉泉洞」など南城市には、他市町村に無い大きな強みとなります。</p> <p>これらの強みと今までの体験滞在交流型観光への施策や取り組み等を活かしつつ、南城市としてのブランドイメージを確立し、沖縄県内でも南城市だけのオリジナリティとアイデンティティーを利用した実現性のある施策を展開することとします。</p> <p>方針3 自然・文化・歴史の活用と保存と継承</p> <p>方針1にある<b>沖縄精神文化の最高の聖地である点や自然・文化・歴史などの南城市の「強み」は、訪れる人が魅力に感じる要素でもありますが、今まで地域が保存継承してきた大切な財産でもあります。</b>この強みは、観光振興の結果、多くの人が無秩序に訪れることによって壊れてしまう可能性を秘めています。</p> <p><b>そこで、景観法による景観計画等の保全策や聖地等への立入制限等の規制を含めて検討し、今ある財産を次世代に確実に残していくための取り組みを行っていきます。</b></p> <p>(3)課題に対応した取り組みの方向性</p> <p>① 南城市としての観光施策の方向性を打ち立てるために：南城市観光ブランドイメージを確立する/観光形態を改善する/観光への取り組み方を明確にする</p> <p>③ 既存の観光資源や施設等を有効活用するために：イベントや祭りで積極的に活用していく/観光プログラムによる活用/既存資源等を活用する/地域資源等の整理を行う</p> <p>④ 環境の保護、伝統文化を保護していくための取り組みのために：観光振興をすることによる環境面への配慮を行う/史跡の保全策を考えて観光振興を行う/地域の歴史・文化を地域で守る取り組みを実施する/ゾーニングや観光客の規制を行う/地域のルールやマナーを周知する</p>
南城市環境 基本計画	<p>2 快適環境 (1) 歴史と文化の保全と活用</p> <p>■施策の方向性 本市に数多くある文化遺産を守り、つないでいくとともに、観光資源としても活かしていく取り組みを推進します。</p> <p>■施策の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●文化遺産の調査・評価</li> <li>・文化財基礎調査を推進します。(文化課)</li> <li>・文化財のモニタリングと文化財指定・登録を推進します。(文化課)</li> </ul>



計画名	位置づけ
	<p>●文化遺産の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所有者や地域住民といった関係者が文化遺産に誇りを持ちながら、積極的に活動できる仕組みを検討します。(文化課)</li> <li>・文化遺産を恒久的に維持するために、計画的に修復や整備を進めます。(文化課)</li> <li>・庁内各部署が連携し、部署間の協働や役割分担に取り組みます。(文化課、関係各課)</li> </ul> <p>●文化遺産の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化遺産を身近に感じてもらうため、地域において文化遺産に触れる体験、学習活動や地域活動を展開します。(文化課)</li> <li>・学校・家庭・地域が一体となって歴史文化に関する学習機会を充実させます。(文化課)</li> <li>・文化遺産を観光に活用する動きが広がりをみせていることから、文化遺産の自立的な維持管理が図られるように文化遺産の活用機会の促進に取り組みます。(文化課、観光・文化振興課)</li> </ul>
南城市墓地基本計画	<p>2. 基本方針 (1)墓地禁止区域の設定 ①墓地禁止区域設定の考え方</p> <p>1)墓地禁止区域の基本方針</p> <p>c. 自然との調和</p> <p>南城市では、ハンタ緑地を代表するように自然が多く残されています。<b>緑豊かな緑地や歴史・文化遺産などを保全する必要がある場所は、墓地の立地を禁止します。</b>都市構造の都市緑地軸、緑地ゾーンを基本とし、具体的には、「第1種風致地区」の範囲は、墓地の立地を禁止します。</p>
なんじょう子どもプラン	<p>(5)子どもたちの活動の充実</p> <p>カ. 田園空間活用事業の推進[生涯学習課]</p> <p>本事業を継続して実施し、子どもたちに自然と直接ふれあう農業のすばらしさや命の大切さ、食のありがたさを実感してもらい、豊かな心が育まれるように推進します。</p> <p>ク. コミュニティ文化形成事業の推進[観光・文化振興課]</p> <p>今後は市民主導で創作できるようなリーダー的人材を育てるとともに、南城市としての文化を創出する活動を目指します。また、地域めぐり出前コンサートはバリエーションを増やし、一人でも多くの市民に舞台芸術への関心を持って頂くとともに、多くの子どもたちを舞台へ上げるための努力を続けていきます。</p> <p>ケ. 子どもの文化教育育成事業の推進[観光・文化振興課]</p> <p>今後はレベルアップに加えて、規模の拡大や市内の音楽団体(小中学校吹奏楽部や女声・シルバークォーラス等)との連携を強化し、市民合唱結成に関わる取り組みにも力を入れていきます。また、市民ミュージカルへの参加を通して希薄になりつつある市民の異世代間交流を積極的に推進します。</p> <p>コ. 学校芸術文化支援事業の充実[観光・文化振興課]</p> <p>今後やアウトリーチやシュガーホールにおける公演の連続性を充実させ、子どもたちがそれぞれの視点から舞台芸術に触れる機会を構築していきます。</p> <p>サ. 芸術芸能鑑賞事業の推進</p> <p>シュガーホールでは合併後も、多くの著名な演奏家を招き、公演を開催しています。今後も音楽を中心とした上質な舞台芸術を多くの市民へ届けていきます。</p> <p>シ. 子ども向け文化財等の社会教育の推進[文化課]</p> <p>児童生徒や幼稚園児が地域の文化に触れ、関心を高めていくことを推進するために、本事業を継続して実施します。</p>
南城市地域福祉計画	<p>1-1-(1)福祉意識向上への取り組み</p> <p>②福祉教育・体験学習の充実</p> <p>○学校教育等と連携し、子どもたちの発達段階に応じ、やさしい心を育む福祉教育の充実に努めるとともに、高齢者や障がいのある市民との交流、ボランティア活動等の体験を通して思いやり、助け合う意識の醸成に努めます。</p>

計画名	位置づけ
	<p>1-1-(2)市民参加・交流機会の拡大</p> <p>②気軽に集える居場所づくり</p> <p>○地域の人たちが気軽に集まり、ユンタクすることで交流が深まり、地域の情報交換などができるよう、誰もが気軽に利用できる居場所づくりを進めていきます。</p> <p>③地域行事の活性化支援</p> <p>○地域の関係団体や企業、福祉関係団体等との連携により、地域行事を活性化するための支援を行います。また伝統行事の継承等を通じた世代間交流や地域を理解する取り組みを進めていきます。</p> <p>1-2-(1)地域福祉人材の育成</p> <p>①福祉人材の掘り起こし・育成</p> <p>○社会福祉協議会、福祉関係団体との連携により講座や研修会等を開催し、各種福祉人材の育成支援に取り組みます。</p> <p>②ボランティアの育成・確保</p> <p>○ボランティア活動を普及するためボランティアセンターと連携しながら、ボランティアの育成支援を推進します。</p> <p>○福祉教育を園児から中学校まで一貫して学べるよう社会福祉協議会や福祉関係団体との協働により推進します。</p> <p>○団塊の世代を対象として研修会や講座の充実を図る等、気軽にボランティア活動に参加できる環境づくりを進めます。</p> <p>④リーダー等の養成・確保</p> <p>○豊富な経験・知識技術を持つ人材の発掘とリーダーの育成を支援し、福祉活動や地域のコミュニティを支える「ひと」づくりを進めます。</p> <p>○公民館講座等の一部に福祉関連事業を取り入れ、生涯学習と連携した福祉教育を進める等、地域の福祉を担う人材の育成に向けた取り組みを進めます。</p> <p>1-3「ユイマール」の地域をつくる</p> <p>1-3-(1)地域に愛着を持つ意識の啓発</p> <p>①地域への愛着心を高める</p> <p>○次代を担う子どもたちが、自分たちの地域を誇りに思い、愛着を感じることができるよう、多様な機会を通して地域との関わりを持つ機会を継続的に推進します。</p> <p>②開かれた地域づくりの推進</p> <p>○ユイマール等の地域特性を活かし、転入者等が地域に溶け込んでいけるような受入体制を整えます。</p>

## (2)市民ワークショップにおける要望(ニーズ)

第1回市民ワークショップでは、「尚巴志スピリッツをいかに活用するか」というテーマでグループ討議を行った。その結果、以下のような活用要望が示された。

文化資源の整備については、佐敷上グスクやつきしろの宮の復元整備及び尚巴志関連の文化資源のイベントやPRによる活用がみられる。イベントやPR事業については、尚巴志をテーマとした既存イベントの充実や新規イベント、グッズなどの商品開発などが多くあがっている。教育や芸術関連においても、絵本や漫画をはじめとする教材づくりや演劇の創作があがっている。演劇については、知名度の高い劇団に県外・海外で公演してもらうことで尚巴志PRにつながる提案もあり、PR事業とあわせて事業化へのアレンジが可能と考えられる。観光についても尚巴志に関するツアーが提案されているが、バスや歩くツアーなどその手法・ルートは様々設定できるものと考えられる。施設整備については、尚巴志の歴史館（博物館）が提案されている。

また、尚巴志の功績を踏まえ南城市において中国との国際交流に結び付ける観点や、尚巴志の逸話を学ぶことで教育や地域おこしの精神として、今後活かしていくことも提案されている。

ワークショップにおける市民からの要望

分類	主な内容・傾向	要望例
文化資源の整備・活用	佐敷上グスクやつきしろの宮の復元整備、読谷村にある尚巴志の墓の移転や分骨、知名度向上等の利活用面の要望	佐敷上グスクの整備/つきしろの宮の復元/尚巴志の墓の移転/佐敷ようどれのPR/佐敷上グスクでの舞台イベント
イベントの開催	尚巴志をテーマとしたイベントの開催や、尚巴志マラソンなどの既存イベントにおける尚巴志PRについての要望	尚巴志まつりの復活/尚巴志ハーフマラソンでのPR、Tシャツ配布/ミスコンの開催(ミスター尚巴志)/行列の再現/尚巴志の絵のコンテスト
PR事業	キャラクターグッズの開発、尚巴志そば・スイーツなどの尚巴志をテーマとした商品開発、モニュメントやバスの設置などのPR事業についての要望。また、8月4日を尚巴志の日として市の公休日にするという提案もある。	キャラクターグッズ(公募)/商品開発(ストラップ、Tシャツ、キーホルダー、饅頭、泡盛・尚巴志そば・スイーツ/モニュメントの設置/尚巴志バス(ラッピングバス)/宣伝DVDの作成/尚巴志の日(8月4日)/NHK大河ドラマ/尚巴志像の完成
教育関連	絵本、漫画、紙芝居、歌、なぞなぞ、肖像画をはじめとする尚巴志への教材づくりや、学校での授業の取り入れなど、子どもたちに対する教育普及に関する要望	小学校の授業への取り入れ/尚巴志学という教材づくり/肖像画/絵本(読み聞かせ)・漫画・紙芝居/尚巴志の歌/尚巴志なぞなぞ
芸術関連	尚巴志の演劇の創作の他、その劇を知名度の高い劇団等に上演してもらうことでPRを図るといった要望	尚巴志の演劇/劇団四季やシルク・ドゥ・ソレイユによる世界上演
観光関連	観光ツアーやバスツアー、婚活ツアー、ガイドツアーなど尚巴志に関連したツアーの提案、現在の観光施設への尚巴志コーナーの設置などの要望	尚巴志ツアー(歩くガイドツアー)/民泊参加者へのお土産/物産館での尚巴志コーナー設置/首里城から南城市のグスクへのバスコース/婚活ツアーや結婚式(クラブ尚巴志)/ガイドの育成
施設整備	尚巴志を伝える歴史館(博物館)についての要望	尚巴志歴史館(博物館)/館内に尚巴志マラソンの入賞者の写真掲示等
交流	尚巴志の海外貿易の功績をふまえた、南城市と中国等との国際交流の推進の他、本事業のワークショップのような尚巴志を語る場を設けることも要望されている。	中国と南城市との交流/南城市での貿易/尚巴志ワークショップ/外国人の歓待式
尚巴志精神の活用	尚巴志の伝説・逸話・精神を学ぶことで、教育や地域おこしの精神として発展させる等の、今後の意見がみられた。	犬と鳥に育てられた逸話を子育て法に活かす/貿易能力を「外との付き合い方論」として発展/鉄の製造というイノベーション精神を見習う/三山統一を市の「志」とする/平和発信のシンボル

### (3)ヒアリングから得られた位置づけ ※次年度さらに4名ほどの識者にヒアリング（分野未定）

学識経験者にヒアリングを行い、尚巴志に関する位置づけや事業化可能な要素について意見を伺った。

#### ヒアリング対象者:高良倉吉 琉球大学法文学部教授

- 尚巴志の妹に馬天ノロがいるがこの存在も象徴的である。尚巴志をはじめとした第一尚氏の精神世界が東方祭祀として、第二尚氏に引き継がれていくことも尚巴志に関連することではないか。
- 首里の天山陵（第一尚氏の墓）、伊平屋島の屋蔵大主の墓など、尚巴志のルーツや子孫を含めた史跡が全県的な広がりを見せている。南城市外にもある文化資源を要素として取り入れる必要がある。
- 尚巴志については、『歴代宝案』にて海外貿易の世界が語られている。「安国山樹華木記碑」は有名だが、詳しい内容についてあまり解説されていない。こうした情報を翻訳したりしてわかりやすくすることも重要である。
- 目に見えてわかりやすい尚巴志の功績は、首里城の内郭部分及び龍潭である。内郭部分は尚巴志時代の造営と考えられており、それにとりついている城門も同時代のものであり、グスクの整備スタイルをとらえることができる。また正殿床下に一部公開されている基壇の遺構は尚巴志時代の可能性も考えられる。市域を超えた連携が必要。
- 南城市には、尚巴志以前からあるグスクや、集落内にある御嶽や井戸など、小さな資源が豊富にある。これらも一体的にどうアピールするかも課題である。
- 海岸線のアピールも重要である。
- 第一尚氏の末裔と称する門中の存在も、念頭に入れる必要がある。
- 沖縄本島南部の歴史や風土、自然を含めて尚巴志を語る必要がある。南城市の歴史や風土から誕生したスターたる尚巴志が琉球の価値観・精神世界をつくり、のちに中山へ、そして琉球に広がっていったと捉える必要がある。
- 南城市は琉球発祥の地であると同時に、のちの時代においても精神世界の重要な地域としてのブランドを保持した。久高島等、重要なスポットを取り込んだ形のなかでキャラクターとして尚巴志がいることも位置づけた方がいい。
- 首里城をつくる以前の時代状況を発信することは、南城市ならば位置づけ可能だろう。
- 尚巴志は断片的な話題は多いが、全体的な人物像としてはよくわからない部分が多い。そのため個々の要素をストーリー化していくことが大事だと思う。人物像・功績であげた7点もそのひとつの例だと考える。
- 佐敷上グスクやつきしろの宮の整備、佐敷ようどれの一般公開（基地内の制約が現在はある）等、人々が第一尚氏を目で見て感じられるような形にしていく必要がある。
- 佐敷上グスクの発掘遺物も市民の目や耳に焼き付ける工夫が必要である。
- 学校にて、尚巴志や琉球史に関する素材を活かした教育プログラムの整備も必要だと思う。
- 出土品などの収蔵機能を含めた博物館の整備は必要である。だが今後の博物館は、見学者に展示物と距離感を持たせない、気軽に館に入れて資料に触れることのできる施設が良い。

#### (4)インターネット等による動向

インターネットは近年、最も身近で有力な情報発信媒体となっている。「尚巴志」をキーワードに、インターネットでの情報発信や検索動向を把握する。

Googleにおける沖縄の主な歴史人物を検索したヒット数が以下の表「google検索ヒット数」である。検索ヒット数は、情報を発信するサイト数を示しており、「尚巴志」については11,300,000件である。検索ワードとしては、「マラソン」「墓」「子孫」との組み合わせ検索が最も多い。2012年の検索動向をあわせて確認すると、6～7月、11月の尚巴志マラソンの募集・実施期間に検索率が高くなっている。「尚巴志マラソン」については、実施期間前後における尚巴志アピールに寄与していると考えられる。

他の人物を含め、ヒット数が多いのは「あまわり（阿麻和利）」や「尚円」がある。「あまわり」はうるま市で実施している「肝高のあまわり」の公演に関する検索関連ワードが多く、阿麻和利をテーマとした地域おこし活動の成功事例のひとつである。

なお、どの人物についても関連ワードに「墓」との組み合わせが確認できる。歴史人物の墓参は歴史をめぐるルートのひとつであり、南城市にある第一尚氏をはじめとする墓なども、事業化可能性のある要素と考えられる。

#### Google検索ヒット数

No.	人物	検索ヒット数	関連ワード1	関連ワード2	関連ワード3	関連ワード4	関連ワード5
1	尚巴志	11,300,000	尚巴志マラソン	墓	子孫		
2	あまわり	65,500,000	あまわり浪漫の会	北谷	沖縄	墓	
3	阿麻和利	707,000	阿麻和利の乱	護佐丸	卒業公演	墓	阿麻和利とは
4	百十踏揚	1,350,000	墓	小説	文庫	琉球王女	
5	恩納ナビ	304,000	コンテスト	資料館			
6	護佐丸	1,100,000	陸上競技場	護佐丸FC	墓	太鼓	家系図
7	尚円	15,300,000	尚円の里	尚円28	子孫	尚円志	家系図
8	蔡温	54,700	蔡温松	蔡温橋	風水	蔡温の言葉	墓
9	羽地朝秀	71,900	墓				
10	尚泰	310,000	尚泰久	墓	子孫	真鶴	テンペスト

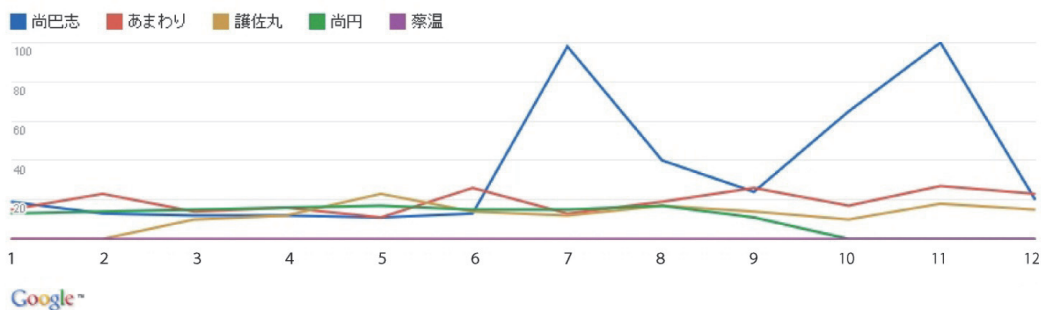
※2013年3月12日(火)に検索

※関連ワードは、google検索で検索ワード候補として表示されるワード。沢山検索されているワードの組み合わせを意味する。

※関連ワードは、重複するワードを省略した。(例:尚巴志マラソン/尚巴志マラソン,写真 → 尚巴志マラソンに統一)

#### 2012年1年間の検索動向

※下記のグラフは検索件数ではなく、最高値を100として割合を示したもの



※googleトレンドより。6～7月は尚巴志マラソン募集期間、11月は尚巴志マラソン実施期間

## (5)商業利用等の動向

尚巴志を利用したグッズ等については、多くは尚巴志マラソンに関連するグッズである。尚巴志ハーフマラソン公式の関連グッズの他、尚巴志マラソンとタイアップした商品（酒、食品）が見られ、尚巴志マラソンが尚巴志の商業利用を促進していると考えられる。また、現代版組踊「翔べ！尚巴志」や「鬼鷲：琉球王尚巴志伝」のパンフレットやDVD等も商品として販売されている。

尚巴志を利用したグッズ等

商品	開発・販売者	備考
現代版組踊「翔べ！尚巴志」関連グッズ(台本、DVD、CD、パンフレット、ポストカード、島ぞうり、ストラップなど)	TAOファクトリー／父母会	
現代版組踊「鬼鷲：琉球王尚巴志伝」関連グッズ(パンフレット、CDなど)	TAOファクトリー	
尚巴志マラソン関連グッズ(Tシャツ、段ボール製パーランクー)	南城市観光協会	限定品
尚巴志ハーフマラソンin南城・記念ボトル(泡盛)	株式会社多良川	泡盛
巴志くん	みなもとや (代表 宮城源幸)	南城まるカステラ (マラソンの際に登場)